

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 坂井市立鳴鹿小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 910-0336

福井県坂井市丸岡町楽間4-40

E-mail nainfo@naruka.ed.jp

Website http://www.naruka.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 76 名 女子 50 名 合計 126 名

幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校では、「豊かな心を持ち、主体的に考え、実践できる子の育成」を研究テーマとして、全ての教育活動に ESD の視点を持ち、自然や人との「かかわり」や「つながり」を通して、心もからだも健康で、進んで学ぶ、心豊かな児童を育てることを目標としている。

ESD の実践については、持続可能な社会の担い手づくりの視点からの環境教育の充実を柱に、自然とのふれあいによる豊かな感性の育成、環境問題を自分の問題として捉え環境を大切にする児童の育成のために、①身近な生き物の観察を通じた生き物と環境のつながりに関する学習、②鳴鹿地区の自然や文化と人のつながりについての学習を行った。

①生き物と環境のつながりに関する学習

1 年生では、生活科の時間を中心に、アサガオの栽培や昆虫の観察、サクラマス飼育などの活動を、2 年生では、季節の野菜やバラ、ムクゲの栽培などの活動を行った。

4 年生では、「鳴鹿地区の自然を大切にしよう」をテーマに活動を行った。本

校のビオトープを調べると、外来種が生息していることや、酸素不足に陥っていることなどの問題点が見つかり、その問題を解決するために自分たちができることを考えた結果、継続的な生き物調査や外来種の駆除、清掃活動などを行った。また、地区に出て、ごみの調査や川の水質調査などの活動も行った。

5年生では、福井県の「地域と進める体験推進事業」とタイアップするかたちで、稲づくりや季節の野菜栽培などの農業体験を行った。

②鳴鹿地区の自然や文化と人のつながりについての学習

1年生では、さつまいもほりやスイートポテト作り、新入生体験入学をとおして、地区の幼保園児との交流活動を、2年生では、まち探検をとおして、地域の人たちとの交流活動を行った。

3年生では、「わたしたちの鳴鹿の自慢」をテーマに、鳴鹿地区の特色などについてウェブで調べたり、家の人や地区の人にインタビューしたりして調査活動を行った。

5年生では、農業体験で収穫した作物を「まほろばフェスティバル in 鳴鹿」や「丸岡そば祭り」で販売し、地区の人たちとの交流活動を行った。

6年生では、「鳴鹿の歴史を知ろう」のテーマを設け、出前授業で専門家の話を聞いたり、ウェブやパンフレットなどの資料を利用して調べたりするなどの調査活動を行った。

また、廃油を利用して作ったキャンドル、古着をリメイクしたティッシュカバーやバッグなどを「まほろばフェスティバル in 鳴鹿」で販売し、地区の人たちとの交流活動を行った。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

○六呂瀬山古墳群のしおり ○おもしろQ&A 鳴鹿大堰 ○九頭竜川流域防災センターホームページ
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「豊かな心を持ち、主体的に考え、実践できる子の育成 ～自然や人との「かかわり」や「つながり」を通して～」を研究テーマに、全ての教育活動にESDの視点を持つことをスクールプランに明記し、「かかわり」や「つながり」を通じた学習を心がけている。具体的には、学年ごとにESDカレンダーを作成し、学習時期や内容、学習の進め方などを明確にし、それに基づいて「まほろば学習」として取り組んでいる。

また、ESDカレンダーの作成には、学年間のつながりを意識し、系統性を持たせるよう配慮している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌にユネスコスクール担当、ESD担当を置き、相互に連携しながら、情報を収集したり、集めた情報を教職員に伝達したりしている。

また、身近な生き物の観察をとおして、自然とのふれあいによる豊かな感性の育成、環境問題を自分の問題として捉え環境を大切にす児童の育成のために「まほろばネイチャービオトープ」を設置し、児童、保護者とともに維持管理に努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

児童、保護者、家庭・地域・学校協議会委員、教職員を対象とした学校評価を12月中旬頃に行っている。内容は、確かな学力の確立、豊かな人間性の育成、健やかな体の育成、家庭・地域との連携を4つの柱とし、それぞれに5～6つの評価項目を設けている。どの学年でも、ESDと教科を関連づけながら取り組むことができ、地域との交流をとおして外部にも取組を発信することができた。国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成が今後の課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学年ごとのESDカレンダーに基づいた「まほろば学習」の成果発表会「まほろばフェスティバル」を11月中旬頃に開催し、地域・家庭に公開した。1・2年生、3・4年生、5・6年生でペアになり、互いに発表があった。調査や発表の資料作り、プレゼンテーションなどをおして、児童の探究する力、表現する力、交流する力、評価する力が高まったと考える。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

鳴鹿コミュニティセンター主催の「まほろばフェスタ in 鳴鹿」への参加をはじめ、鳴鹿幼保園、サクラマスレストレーション、市立丸岡図書館、丸岡城資料館、スーパーマーケット、清掃センター、鳴鹿堰堤管理事務所、九頭竜川資料館などとの交流活動を行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

昨年度は、ジャパンアートマイル壁画制作プロジェクトを通して、タイ・チュラロンコン大学附属小学校との交流に取り組み、日タイ教育交流会に参加し、情報交換・意見交換を行った。

本年度は、交流実績はないが、国内外のユネスコスクールとの交流ができるようスカイプ活用の研修や環境の整備を行った。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

全ての教育活動にESDの視点を持つことをスクールプランに明記し、「かかわり」や「つながり」を通じた学習を心がけた結果、新学習指導要領に謳われる「主体的・対話的で深い学び」へと児童たちの学習が変容してきている。また、日々の実践をとおして教師のESDへの意識が高まってきている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

次年度もESDをスクールプラン（学校経営方針）に位置づけ、ESDカレンダーに基づき、保護者や地域の協力を得ながら次のような活動を行う。

- ①「まほろば学習」（生活科および総合的な学習の時間）を中心にESDを行う。その際、ビオトープを含めた周辺環境を活用する。
- ②環境教育を推進し、体験活動を通して環境問題を自分の問題としてとらえ、環境保全意識を高める。
- ③地域学習を通して、地域への関心を高め、郷土愛を育てる。
また、実践した活動の、発表・発信の場として、まほろばフェスティバル（学校行事）を設け、まほろばフェスタ in 鳴鹿（地域行事）への参加を予定している。